

平成 21 年  
2 月 26 日

# 病害虫発生予報 3 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ．今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成キュウリ：褐斑病	1
施設野菜(トマト, イチゴ, キュウリ, ピーマン): 灰色かび病	2
春レタス：灰色かび病	2
促成トマト：黄化葉巻病	3

【その他の病害虫】	3
イチゴ, 促成・半促成ピーマン, 促成キュウリ, メロン, 春ハクサイ, 春レタス	

### ．病害虫ミニ情報

水稻育苗中に発生する病害等の対策について	5
----------------------	---

．今月の気象予報	6
----------	---

．テレホンサービス	6
-----------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は、平成 21 年 2 月 4 日現在のものです。

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」  
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報  
【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類  
[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

2月下旬現在，被害葉率，発生地点率ともに平年より高い。  
気象予報によると，向こう1か月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。  
薬剤散布にあたっては，下葉を取り除き，葉裏や葉柄にもよく付着するよう十分な量で丁寧に散布する。また使用回数，収穫前日数にも十分注意する。  
薬剤抵抗性ハダニ類の出現を防ぐため，同一薬剤の連用はさける。

促成キュウリ

1. 褐斑病  
[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

2月下旬現在，発病葉率は平年よりやや高く，発生地点率は平年並である。  
気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も少ないと予想されることから，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。  
ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。  
薬剤散布は，薬液が葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行わない。

施設野菜(トマト,イチゴ,キュウリ,ピーマン)

1. 灰色かび病

[ 予報内容 ]

作物名	発生時期	発 生 量	発生地域
トマト	やや早い	多い	県下全域
イチゴ	平年並	やや多い~多い	
キュウリ ピーマン	平年並	平年並~やや多い	

[ 予報の根拠 ]

2月下旬現在,発生量はトマトで多く,イチゴでやや多い。キュウリ・ピーマンでは平年並である。

気象予報によると,向こう1か月の天気は平年に比べ気温が高く,降水量が多く,日照時間が少ないと予想され,ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので,換気,送風,暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

花落ちが悪い花卉や発病部位は早急に取り除き,ハウス外に持ち出して処分する。

発生が多くなると防除が困難になるため,初期防除を徹底する。

薬剤散布は,薬液が乾きにくくなる午後からは行わず,晴れた日の午前中に行う。また,曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は,くん煙剤を利用する。

薬剤は,十分な量で丁寧に散布する。また,耐性菌の出現を防ぐため,系統の異なる薬剤をローテーション散布する。(平成21年2月26日発表 病害虫情報 No.10 参照)

春レタス

1. 灰色かび病

[ 予報内容 ]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県西地域

[ 予報の根拠 ]

2月下旬現在,発病株率,発生地点率ともに平年より高い。

気象予報によると,向こう1か月の天気は平年に比べ気温が高く,降水量が多く,日照時間が少ないと予想され,トンネル内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

トンネル内が多湿になると発生が助長されるので,換気によりトンネル内の湿度を低く保つ。

結球期には,株元が繁茂して過湿となるため,発生に注意する。

発病部位は,早急に取り除き,ほ場外に持ち出して処分する。

薬剤散布は,薬液が乾きにくくなる午後からは行わず,晴れた日の午前中に行う。

(平成21年2月26日発表 病害虫情報 No.10 参照)

## 促成トマトの黄化葉巻病について

### [現在の状況]

2月下旬現在、数地点の促成トマト圃場で発生を確認した。

### [防除対策]

発病が認められた株は感染源となるため、すみやかに処分する。

黄色粘着板を設置し、ウイルス媒介虫タバココナジラミの発生推移をよく観察する。

薬剤散布にあたって、タバココナジラミは葉裏に寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

防虫ネットの設置は防除対策として重要であるため、設置していない場合は次作の対応として、ハウスの開口部に防虫ネット（0.4mm 目合い以下）を設置し、タバココナジラミのハウスへの出入りを防止する。

### 【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並からやや多い発生である。向こう1か月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。
促成・半促成ピーマン	斑点病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。
促成キュウリ	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	菌核病		

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
メロン	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間も少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	つる枯病		
	菌核病		
春ハクサイ	白斑病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並からやや多い発生である。向こう1ヶ月の天気は，降水量が多く，日照時間も少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	べと病		
春レタス	腐敗病	発生量：やや多い ～多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。向こう1ヶ月の天気は，降水量が多く，日照時間も少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	べと病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	菌核病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1ヶ月の天気は，降水量が多く，日照時間も少ないと予想され，発生を助長する条件である。

## 水稻育苗中に発生する病害等の対策について

### 1. 病害等の種類

育苗中に発生する主な病害として、**いもち病**、**ばか苗病**等の糸状菌（カビ）による病害と、**もみ枯細菌病**、**苗立枯細菌病**等の細菌性の病害がある。これらは病原菌に汚染された種子が主要な伝染源で、種子消毒が有効である。

（種子消毒については、病害虫発生予報2月号を参照する。）

この他、フザリウム菌や、リゾープス菌等の糸状菌による病害である**苗立枯病**は、土壌や育苗資材が主要な伝染源で、病原菌のない用土や資材を用いることが対策として重要である。

また、緑化期までは**鳥害**（スズメなど）が問題となることもある。

いずれも、いったん被害が生じてしまうと回復させることが難しく、被害程度によっては苗が不足して田植えができなくなる。予防が最大の対策である。

### 2. 対策

#### 1) 育苗前の作業について

前年使用した育苗箱は、よく洗浄し、ケミクロンG または イチバン で消毒する。

育苗用土は、殺菌されたpH4.5~5.5のものを用いる。自分で用土を用意する場合はpHを調整し、苗立枯病の対策として薬剤を用土に処理する（処理方法は各薬剤のラベルで確認する）。薬剤には、ダコニール粉剤、タチガレエース粉剤、ダコニール1000、タチガレエース液剤、バリダシン液剤5 などがある（平成21年2月4日現在）。

なお、薬剤を処理する際には、他の作物を栽培する場所では行わないようにする。

育苗ハウスの床が均平でなく部分的に水が溜まるような場合には、そこが過湿となって病害が発生しやすいので、整地して平らにしておく。

#### 2) 育苗中の管理について

育苗中の極端な低温や高温は、病害の発生を助長する。育苗ハウス等の温度管理には十分注意する。

出芽時の温度は28~30 とし、必要以上に高めないようにする。出芽が悪いからといって温度を高めると、病害の発生を助長する。浸種時に適温でじっくり吸水させてから鳩胸状態まで催芽（芽出し）して播種することが大切である。

緑化期（出芽揃い~本葉第1葉期）までは、昼間20~25、夜間は15~20 とする。

硬化期は昼間20~25、夜間10~15 とする。

緑化期、硬化期は加湿にならないように注意し、かん水量は、「夕方には覆土の表面がやや乾く」程度とする。

#### 3) 鳥害防止について

もみに胚乳が残っている間は、鳥害を受けるおそれがある。スズメの場合、人家・電線・樹木近くで被害が大きいとされる。育苗ハウスの開口部に防鳥ネットを張って防止するのが確実な方法である。スズメでは、網目は20mm目で実用上の問題はないが時々通り抜けることができる、10mm目なら確実に防げる、とされている。また、網と地面、網と網などの継ぎ目に隙間ができないようにしておかないと効果がない。

## ・ 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

( 予報期間 2月21日から3月20日 )

気象庁 ( 2月20日 発表 )

< 向こう 1 か月の気温 , 降水量 , 日照時間の各階級の確率 ( % ) >

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	20	30	50
日照時間	関東甲信全域	50	30	20

[ 概要 ]

天気は平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は高い確率 70% です。降水量は多い確率 50% です。日照時間は少ない確率 50% です。

< 1 週目の予報 > 2月21日 ( 土曜日 ) から 2月27日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 高い確率 70%

< 2 週目の予報 > 2月28日 ( 土曜日 ) から 3月6日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 高い確率 70%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 3月7日 ( 土曜日 ) から 3月20日 ( 金曜日 )

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

## ・ テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号 : 029 ( 226 ) 5321

3 月上旬 果樹カメムシ類の越冬状況について

3 月下旬 水稻育苗期間中の病害対策について

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散 ( ドリフト ) しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。